

全体講評

正解率が高くほとんどの人ができている問題がある一方、正解者が非常に少ない問題も多くありました。間違いで多く見受けられたのが、問題文のヒントを使わずに、一般論で答えて不正解となっているケースです。午後 では、一般論では正しいことを答えても、点数がまったくつかないことも多くあります。解答の第一プライオリティは、あくまでも問題文の記述と関連する項目であることを絶対に忘れないください。

設問の中には、出題者の意図が読み取りにくいものもありましたが、注意深く問題文を見ていくと、ヒントが必ず見つかります。このヒントを見逃さないようにすることが、午後 解答の最大のポイントです。問題文を 1 回目に読んだ時に、このヒントが見つかるような国語的な感性を磨くことを、ぜひ心掛けてください。

問1 システム開発プロジェクトの計画策定

システム開発プロジェクトの計画策定に関する問題です。設問の記述が少し曖昧で、出題者の意図が少し読み取りにくかったかもしれません。

[設問 1]

(1)は設問で問われている「本システムの計画における不足部分」が何を指すのか、少し分かりにくい設問でした。特にここで言っている計画が何に対する計画なのか、この文章だけでは分かりません。前後の文脈から判断してテスト計画のことを指しているということで考えていくと、不足部分はテスト計画の不足部分ということになるので、新システムの追加機能とプログラム変更部分に対応したテスト計画が不足しているという解答が導かれます。

新システムの特徴である画面等の操作性向上部分のテストという解答も多くありました。これも、解答と類似の内容ですが、新システムの追加機能は、これに限定されるわけではないので、この解答は 4 点としました。

このほか、現システムの保守部分に対応するテストという解答も多くありましたが、これは現システムのテスト計画から不足している部分に分かるわけではないので、不正解としました。

(2)は並行稼働による整合性検証の具体的な作業を答える設問でしたが、これは一般常識で答えても正解

が導けるので多くの人が正解でした。

操作性の確認という趣旨の解答も多くありましたが、これは、現システムと比較する必要がないので、並行稼働の検証事項としては不適切と考え、不正解としました。

[設問 2]

(1)は、改修内容の新システムへの反映を結合テストの期間中に行うとどのような不都合が発生するかを問う設問でした。これも一般論で答えても、正解が導けるので多くの人が正解でした。解答としては、作業効率のほかに手戻りの発生を指摘した人も多くいましたが、これも正解としました。

(2)は、並行稼働による整合性検証を 2 か月かけた理由を問う設問でした。この設問は、問題文のどこに着目するかで解答の観点が異なるので、解答にも大きなばらつきが出ました。解答としては、現行機能を保証するという観点の解答は正解としました。このほかに、結合テスト中に発生した現行システムへの修正点を新システムに反映した結果のテストをこの期間でやらなければならないという解答も問題文の記述に則した内容なので正解としました。

[設問 3]

(1)は、開始時期の遅延リスクに対して準備しておくべきことを答える設問でした。この設問も問題文のどの部分に着目するかでいろいろな解答が考えられるので、解答にばらつきが出ました。特に他のプロジェクトの状況を確認しておくという趣旨の解答が多くありましたが、外注に関する部分は問題文で非常に強調されている点なので、やはり外注に関する部分を優先して準備するべきと考え、この解答は不正解としました。また、外注と契約を結ぶという解答もありましたが、ここではまだ準備段階なので、契約までは結ぶ必要はないと考え、この解答は 4 点としました。

(2)は、システムの稼働時期に関して、ユーザに確認すべき内容と見直し内容を問う設問でした。確認すべき事項としては、解答例の他に稼働開始時期が 10 月で良いかを確認するという趣旨の解答も多くありました。この解答も解答例と類似の内容ということで 4 点としました。見直し内容としては、保守凍結期間を短縮することだけを述べて、どのように短縮するかを述べていない解答が多くありましたが、この解答は 4 点としました。短縮の方法としては、要員の増強や

総合テストと整合性検証を並行で行うという解答も正解としました。

問2 プロジェクトの進捗管理

プロジェクトの進捗管理に関する問題です。この問題もどのような観点から答えるか迷う設問が多く、出来はあまりよくありませんでした。

[設問 1]

問題文の中に「各チームリーダーの下に同様のシステム構築経験者のメンバと経験の浅い若手メンバを配置して、若手の能力育成の面で配慮した組織編成を行った」という記述がありますので、これを踏まえて解答しないといけません。この設問は多くの人が正解でした。

[設問 2]

問題文の「作業全体の予定作業時間数と予定作業量がプロジェクト計画時点で見積もられていた」という表現を踏まえて解答しなければならない設問でしたが、一般論で答えて不正解となっている解答が多くありました。

理由については、「各人が独自に進捗率を判断した」ことを挙げていけば正解としました。この他に、各自が入力をしていることだけを挙げた解答は 4 点としました。

[設問 3]

正解率が非常に悪い問題で、多くの人が一般論で答えて不正解となっていました。設問の中に「進捗遅れの発生時の対応」という記述があるので、問題文の(進捗遅れの発生)の部分からヒントを探さなくてはなりません。ここからヒントを探していけば、早期の対応、全体会議の適宜開催、担当者も交えた現状把握という切り口が見つかるはずです。

[設問 4]

これも正解率が非常に悪かったです。問題文の冒頭に書かれている「システム要件には重要度に応じて Q 社の考える優先順位があり、プロジェクトに進捗遅れが見られる場合はシステム化の範囲や機能について相談してほしいという意向を伝えられていた」という記述に気が付いたかどうかで点数差がはっきりついた設問です。解答としては、この記述には気が付かなくても、優先順位について触れていた人も多くいました。優先順位の設定について触れていけば 4 点としました。

問3 システム開発プロジェクトの外注管理

外注管理に関する問題です。比較的素直な問題で、4 問の中では一番解答しやすかった問題でした。問題文のヒントをきちんと押さえていけば、解答が導けたと思います。

[設問 1]

(1)は、自社開発で行うことが望ましいと考えた理由を答える設問でした。多くの人が、個人情報と絡めて解答していました。自社内環境の方が機密保護が確実に行われることまで書かれている解答を正解としました。ここが書かれずに、D 社から情報管理に万全を期すように求められたことだけが述べられている解答は 4 点としました。

(2)は、R 社に「販売管理システム」を割り当てた理由を述べる設問でした。こちらは、販売管理システムの方が個人情報保護の負荷が小さいことが述べられていけば、正解としました。「販売管理システム」について触れられておらず、「会員管理システム」の個人情報の量が多いことだけを挙げた解答も多かったのですが、このような解答は設問にダイレクトに答えていないので 4 点としました。

[設問 2]

(1)は、Q 課長の不適切な行動を指摘する設問でした。契約面については、多くの人が R 社の要員に直接指揮命令をしている点を挙げていました。このほか、S 課長を通して変更要求を出していない点を挙げた解答も契約の問題と考えることが出来るので正解としました。

変更管理面についても、多くの人が連絡調整窓口を通さずに変更依頼を行っている点を指摘していました。このほか、仕様変更が徹底していない点や口頭で変更依頼を行っている点を挙げた解答も多くありましたが、これらも変更管理面の問題と考えられますが、重要性としては少し低くなると考え 4 点としました。

(2)は、仕様変更が発生する前に、Q 課長があらかじめ行っておくべきだったことを挙げる設問でした。ここでは、仕様変更管理のルールを定めていることを指摘していれば 4 点、それを周知徹底することを挙げていけば 4 点としました。前者のみを解答している人も多くいました。

[設問 3]

(1)は、欠陥修正要求に応じる必要があるかどうかを答える設問でした。これはほとんどの人が不要と解答していました。

(2)は、その理由を述べる設問でした。ここでは、瑕疵担保期間が過ぎているということを述べている

解答を正解としました。契約で定めていないことを挙げた解答も多くありましたが、契約にない場合には民法の規定が適用され 1 年の瑕疵担保期間があるので不正解としました。また、不当な変更要求に起因しているので、修正の必要はないという解答も多くありましたが、これもたとえ契約にない修正要求でも納品してしまうと瑕疵担保の責任は発生するので不正解としました。

問4 プロジェクト計画時におけるリスク管理

リスク管理に関する問題です。新試験制度になって、4 問中 2 問を選ぶようになったために、この問題を選んだ人は非常に少なかったです。設問 1、設問 2 は、比較的出来が良かったのですが、設問 3 は出来が非常に悪かったです。

[設問 1]

開発計画書に記述されたリスクの内容を問う設問です。

(1)は、システム要件に関するリスクを答える必要があります。M 社から提示されるシステム仕様が、画面イメージと画面遷移だけである点を指摘するのが正解ですが、営業部が積極的にシステム仕様決定に参画しない点を挙げた解答も多くありました。この解答もシステム仕様に関連はしているので 3 点としました。対策としては、システム要件の確定作業を A 社が支援するという解答も多くありました。この解答も正解としました。

(2)は、試験体制について答える必要があります。経験が少ない情報システム部では十分なテストが出来ない点を挙げた解答も多くありましたが、この解答も正解としました。対策としては、A 社がシステム部のテストを支援するという解答も多くありました。この解答も正解としました。

[設問 2]

プロジェクトマネージャ試験では珍しい穴埋め問題でしたが、多くの人が正解でした。(b)は「委任」も正解です。(c)は「多段階」も正解としました。理由としては、前半の要件が確定されていない点だけを挙げた解答が多くありました。この解答はリスクを述べていることにならないので、4 点としました。

[設問 3]

プロジェクト報告書を作成する理由を挙げる設問でした。問題文にヒントがないので、正解率は非常に低かったです。一般論で答えなければならないので、なかなか三つの切り口を挙げるのが難しく、多くの人が一つだけ正解でした。

また、同じ切り口で複数の解答をしてしまい、一つしか正解にならない解答も多くありました。このように複数解答する問題は、必ず異なる複数の切り口で解答するようにしてください。

以上